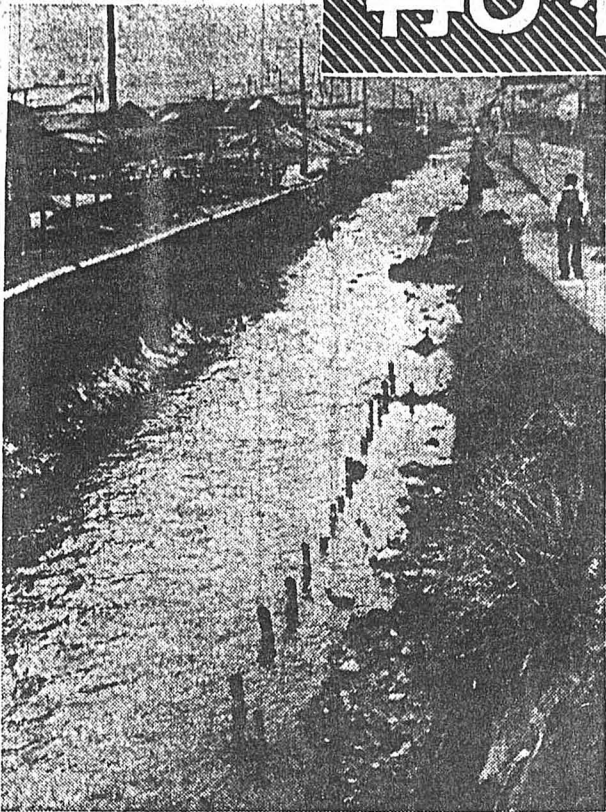


工場から百間池へ流れる排水溝。有機水銀の排出が心配されている



再び有機水銀の不安

チッソ水俣

塩ビ工場から流出か

熊大、近く分析調査へ

チッソ水俣工場はさる五月、水俣病の原因となったとみられるアセトアルデヒドの生産を中止したが、今度は新たに同工場内にある塩化ビニル工場からも微量だが有機水銀が出てくる疑いがもたれている。このため、熊大衛生学教室では、近く同排水の水銀分析を行なうことにした。結果の判明は十月末の予定だが、工場から出される廃水の一部は、現在も百間排水溝から水俣湾に放流されており、成り行きが注目されている。

含まれていても微量 熊大見解

同工場では、塩化塩素水銀を触媒に使ってアセチレンと塩化塩素から塩化ビニルを作る。工場内で触媒に水銀を使うのは、この塩化ビニルと、さらに生産を中止したアセトアルデヒド製造工程の一万トアルデヒドの製造工程で有機水銀が多量に出ることは明らかにな

しかし、新潟県で塩ビ工場が原因となつて第の水俣病が発生。他の塩ビ工場二帯も河川の水銀汚染が著しく、水俣湾一帯にも相当量は汚れているものの、相違わず有機水銀が認められること、理論的に塩ビ工場から有機水銀の排出が考えられることなどから、再び塩ビ工場排水に疑念の目が向けられたものとみられる。

工場の話によれば、現在塩ビ工場の生産量は年間約六万トで、水俣病患者の発生がピークだった三十一年ごろの二万五千トからかなりふえている。排水量は一日四十立方メートルである。非公式な熊大の見解では、仮に有機水銀が含まれていても、その量はごく微量で、当時の分析機器では検出できなかった有機水銀が今度では出るかもしれない。

可能性はある
入鹿山教授の話 有機水銀が含まれている可能性はある。しかし、仮に含まれていたとしてもごく微量である。当時の分析機器では検出できなかった有機水銀が今度では出るかもしれない。

ほかに多量の有機水銀が含有されている。それを動物に投与したさい、無機水銀などの中毒症状が多く出ることがある。その場合は水俣病特有の症状は確認できない。過去の実験で産能を認めなかったのは、そのようなケースではないかどうかわかる必要がある」と言っている。

とも考えられぬ
中村チッソ水俣工場事務部長の話 水俣病の原因は水銀にほかに炭素を配っている。有機はもろろろ、無機も出さない方針で、もしたら一番いいか、熊大に指示を仰いでいる。有機水銀が出ているとしても考えられない。水銀の分析はすべて熊大にお任せである。しかし一度も「有機」が出ることは指摘されなかった。も